

トモネット英語塾 週刊英語レポート講座



Energy and persistence conquer all things.

(近所にある台風通過後の養鶏場。)

著作権について

『トモネット英語塾、週刊英語レポート講座』（以下、本書と表記）は著作権法で保護されている著作物です。本書の使用に際しましては、以下の点にご注意ください。

1. 本書の著作権は、トモネット英語塾にあります。
2. トモネット英語塾の書面による事前許可なく、本書の一部または全部をあらゆるデータ累積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー等）により複製、流用および転載、転売することを禁じます。

使用者許諾誓約書

本契約は、本書を購入した個人・法人（以下、甲と称す）と、トモネット英語塾（以下、乙と称す）との間で合意した契約です。本書を甲が受け取り、パッケージを開封することにより甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的

乙が著作権を有する本書に含まれる情報（ノウハウ等）を 本契約に基づき甲が独占的に使用する権利を有するものです。

第2条 禁止事項

本書に含まれる情報は、著作権によって保護されています。甲は本書から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・公演活動および電子メディアによる配信により一般公開することを禁じます。特に第三者に渡すことを厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織（販売店・代理店等）においてのみ本書に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合は、乙は使用許諾契約書を解除できるものとします。

第4条 損害賠償

甲が本契約の第2条に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、その違約金として、違反件数と販売価格を乗じたものの15倍の金額を支払うものとします。

第5条 責任の範囲

本書の情報の使用責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても、乙は一切の責任を負いません。

「トモネット英語塾、週刊英語レポート」

著者(著作権者): 中西 智裕

■ はじめに

こんにちは、中西です。

日に日に寒くなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか？

10 月も気が付けば、残すところあと 13 日。

早いのか、遅いのかはそれぞれだと思いますが、10 月も楽しく乗り切っていきましょー！！

というわけで、今日はまずは 1 つ英語ニュースを紹介します。

ホテルの料金が高すぎる時の値切り方、です(笑)。
まずは、ざっと読んで見て下さい。(以下、全文です。)

You Could Have

A husband and wife were traveling by car from Atlanta to New York. After almost twenty-four hours on the road, they decided to stop at a nice hotel and take a room. They only planned to sleep for four hours, and then get back on the road.

When they checked out four hours later, the desk clerk handed them a bill for \$350. The man exploded and demanded to know why the charge was so high. He tells the clerk although it's a nice hotel, but the rooms certainly aren't worth \$350.

When the clerk explains that \$350 is the standard rate, the man insists on speaking to the manager.

The manager enters the conversation and explains that the hotel has an Olympic-sized pool and a huge conference center which were available for the husband and wife to use. He also explains that they could have taken in one of the shows which the hotel is famous for. "The best entertainers from New York, Hollywood and Las Vegas perform here," explains the manager.

No matter what facility the manager mentions, the man replies, "But we didn't use it!" The manager is unmoved.

Eventually the man gives up and agrees to pay. He writes a check and hands it to the manager. "But sir," the managers says, "this check is only made out for \$100."

"That's right," replies the man. "I charged you \$250 for sleeping with my wife."

"What! I didn't sleep with your wife!" exclaims the manager. "Well," the man replied, "she was here, and you could have."

簡単に解説すると、

ある夫婦がアトランタからニューヨークまで車で移動していました。

丸一日運転していたので、疲れた夫婦は快適なホテルで部屋をとってひと休みすることにしました。

数時間ほど寝てから、また出発するつもりでした。

4 時間経って、チェックアウトしようとする、請求額は何と 350 ドル(約 3 万 2 千円)。

その金額にびっくりした夫は怒り出し、その高すぎる値段の説明を求めました。

「確かにホテルは快適だったけれど、部屋に 350 ドルの価値なんて無い」とのこと。

すると受付のホテルマンに 350 ドルは部屋の基本料金だと言われ、らちが明かないと、夫は支配人を呼ぶよう要求。

支配人がやってくると、このホテルにはオリンピックサイズのプールや広い会議室も完備されていて自由に夫婦が使えたと説明。

さらに、そのホテルでは人気のショーまで見る事が出来ると言い、ニューヨークやラスベガスといったところからのエンターテイナーを呼び寄せているとのことでした。

しかし、どんなに設備の説明をされても

「我々はそれを利用していない」と言い張る夫。

全くそれを聞き入れてくれないホテル支配人。

最終的に夫はあきらめ、しぶしぶ払うことを承知。

小切手を取り出し、それを支配人に渡します。

受け取った支配人は

「この小切手はたった 100 ドルとしか記入されてません」

と訴えました。

「その通り。あなたは私の妻と寝たので 250 ドル請求しています」と夫。

「あなたの奥さんと寝てませんよ」とあわてる支配人。

すると、夫は、

「妻はずっとここにいたので、あなたはいつでも妻と寝ることができた」

と主張。

アメリカンジョークというより、何だかとんち話みたいなやりとりです。

なるほどと感心はするものの、実際に通用するかは責任持てませんが…。

年末に向けて海外旅行に行かれてる方で不当にボられたときは、速やかに警察へ駆け込みましょう(笑)。

■イメージ

10月8日、木曜日のこと。

伊勢湾台風並みの台風が日本列島を縦断した。

農業へのダメージは相当なもので、総額 109 億円とラジオで聞いた。

(うち愛知県は 89 億円)

過去 10 年間で最強クラスの台風。

どんな人の人生にだって一度や二度くらいは、
エライ目に合うだろうな、というのが僕の考え。

命という字は、人は一度は叩かれると書く。

先代たちは、伊勢湾台風を経験していることだし、

一度くらいは、大変な目に合うだろうなとそんなことを考えながら、
非常食を買いに行ったり、ぜんまい式のラジオを用意したりと、

台風に備えていた。

しかし、同じ場所に住んでいるにも関わらず、妻の無反応ぶりには驚いた。

「君は、伊勢湾台風物語を見たことないのかい？」

と言っても「大丈夫でしょ？」と返答。

さぞお強い心臓の持ち主だね、と思いながらもこれから起こり得る影響をテレビを付けて説明した。

テレビを付けるとレポーターが頭にヘルメットをかぶり、体を紐で固定してそれでも激しい暴風雨に耐えながら現場の状況を中継していた。

お笑いの芸人が体を張ってやることをレポーターが命がけでやっていた。

視聴者に臨場感を伝えるためとはいえ

「大変だなー」と同情してしまったが、

こうやってテレビで生の現場を見せ付けられると台風の威力は一目瞭然。
妻もようやく、これが直撃したらやばいということを理解してくれた模様。

映像は一撃で僕たちの頭の中に台風のイメージを湧き上がらせ台風対策を考えることを促す。

何時にどこを通過するとか、明日の朝の状況とかを真剣に調べ出す。

こんな具合で、人間、頭の中に何か具体的なイメージが出来上がるとそれに応じた行動を起こすもの。

特に台風などのネガティブなものは「自分に降りかかると大変」とばかりに必死になってそれを回避しようとする。

イメージが新たな行動を促し、その行動が新たな結果を導く。

よくよく考えれば、僕たちの仕事や趣味にしてもこれは同じで何事も何かをイメージすることが新たな行動のキッカケとなる。

しかし逆に言うとイメージしなければ新たな行動に繋がることもないし、そもそも何をすべきかも分からない。

だから意識して情報を取り入れて脳にイメージしやすい環境を整えてあげることが大事。

受け身で待っていてもなかなかイメージというものは湧いてこないもの。

積極的に情報をインプットして、積極的にアウトプットする。

積極的にアウトプットする一番のお勧めは、人に教えることだ。

子供や家族、近所の人に自分が学んだことを教えてあげる。

そうすることで、結局は自分の中で活きた知恵となる。

自分にとってプラスになることをイメージいくことが大事。

あなたが常日頃からイメージしていることはどんなものだろうか？

そして、常日頃から無意識に自分に言い聞かせている言葉はどんなものだろうか？

■ get on a taxi?それとも、get in a taxi?

次の日本語を瞬間的に英語に変えて、声に出して見て下さい。

状況は、会社の同僚から

「昨日、突然いなくなったけれど、何かあったのか？」

と言われたあなたは、こんな一言。

**「ああ、昨日は、雨が降っていたから、
タクシーに乗ったんだ。」**

タクシーに乗る。

〇〇に乗る。

頻繁に使われる表現ですよ。

頭で考えず、まずは思った英語を口に出してみましょー！

解説は次項です。

声に出してからお進み下さい。

それでは、どうぞ！

「ああ、昨日は、雨が降っていたから、タクシーに乗ったんだ。」

それでは、解説です。

今回用意した英文はこの 2 つ。

Well, it was raining yesterday, so I got **in** the taxi.

Well, it was raining yesterday, so I got **on** the taxi.

場所を表す前置詞の in と on の大きな違いは、

in が「～の中に」入っている状態であるのに対して、

on は「～の上に(表面)」に乗っている状態である。

基本はこの通りです。

車椅子のように体が包まれるようなイメージを与える場合は、

sit **in** a wheelchair.

ですし、車に乗るのも同じ理屈で、sit **in** the car.です。

一方、椅子に座るときは、sit **on** a chair.

と言います。

これが例えば、sit **on** the car.と行った場合、

「スタントマンですか？」(Are you stunt man?)

と言われてしまっても仕方がないということです。

(車の上乗っているわけですね。)

では、ここで 1 つ問題です。

まずは、以下の英文をそれぞれ声に出して読んでみて下さい。

I was sitting on the grass.

I was sitting in the grass.

grass /græs; NAmE græs/ [noun](#), [verb](#)

■ *noun*

1 [U] a common wild plant with narrow green leaves and stems that are eaten by cows, horses, sheep, etc.: **a blade of grass** ◇ *The dry grass caught fire.*

上記2つの英文の違い(ニュアンス)はどうでしょうか？

パッとイメージできますか？

「絵、イメージ」としては、

I was sitting on the grass.

の場合は、短い芝生の上で座っている、そんなイメージ(風景)です。

一方、I was sitting in the grass.

の場合は、長い芝生の中で隠れている、そんなイメージ(風景)ですね。

これと同じ理屈で、タクシーや、ボートなど比較的小さな乗り物に「乗る」
という場合は、身をかがめて箱に入るようなイメージから

get in～で表現するというわけです。

これが get into～になると、**その中への「移動」**を強調することになるので、日本語で近いものだと「**乗り込む**」という意味になるわけですね。

一方で、バスや電車、飛行機や大型の船など、**公共の交通機関の乗り物**に「乗る」場合は、必ずしも、「身をかがめる」必要はないので、

get on～で表現します。

get on の場合は、get in と違って、乗った本人は運転に関わりなく、ただ乗っているというイメージです。

飛行機に乗る場合は、get on the plane.ですが、

飛行機を自分で運転する場合は、get in the plane.

となるわけですね。

(ハイジャックの場合も、get in the plane.ですね。)

逆に身をかがめて入ったもの車やタクシーやボートなどから降りる時は、

get out of～で表現します。

箱に入る、get in から箱から出る、get out of というわけです。

公共の乗り物(交通機関)から降りる場合は、
get on で入り、get off で出ます(下車します。)

ただし、事故だとか、炎上、衝突など、緊急避難をしなければならない時は、
急いで出る、飛び出すというイメージで、

get out of the train/car/ship

などのように使います。

東京のラッシュアワーを経験したことがある人はよく分ると思いますが、
朝の電車から降りるときは、まさに、

get out of the train.

ですよ(笑)。

それでは、もう一度、冒頭で紹介した英文を読んで見て下さい。

Well, it was raining yesterday, so I got **in** the taxi.

Well, it was raining yesterday, so I got **on** the taxi.

この 2 つの英文のイメージができれば、今回はOKです！

いまいちイメージが掴めないという場合は、もう一度、読んで見て下さいね！

それでは、今回は以上です。

来週をお楽しみにー！！

■ 最後に

Energy and persistence conquer all things.

Benjamin Franklin

「活力と粘り強さがすべてを克服する。」

persistence

per·sist·ence /pəˈsɪstəns; NAmE pərs/ noun [U]

1 the fact of continuing to try to do sth despite difficulties, especially when other people are against you and think that you are being annoying or unreasonable: *His persistence was finally rewarded when the insurance company agreed to pay for the damage.* ◇ *It was her sheer persistence that wore them down in the end.*

conquer

con·quer /kənˈkɜː(r); NAmE kɑːn/ verb [VN]

3 to succeed in dealing with or controlling sth: *The only way to conquer a fear is to face it.* ◇ *Mount Everest was conquered (= successfully climbed) in 1953.*

フランクリンの十三徳の4つ目、決断に続く言葉です。まさに格言ですね。

『トモネット英語塾』

塾長 中西 智裕